

「気象教育研究連絡会」設立のお知らせ、及び第1回開催予告

標記研究連絡会が、昨年12月の常任理事会で承認されましたので報告します。多数の会員の積極的な参加をお待ちします。

1. 設立趣意

気象教育に関しては、日本気象学会の大会など会員が多く集まる場ではこれまでに議論の機会が設けられておらず、問題点が明確に認識されていない。しかし、最近の教育現場だけを取り上げても、例えば次のような問題が指摘されている。

(1) 2002年の新学習指導要領の施行に伴う問題

小中学校における理科の時間数削減と、「総合的な学習の時間」の創設に対する教員の戸惑い。特に中学校理科における気象分野の4割削減（「日本の天気」の単元削除）

(2) 高等学校における問題

(a) 地学履修者の激減（県によっては地学担当教員もほとんどいない）

(b) 大学入試センター試験に関する問題（現状では、試験の時間割の制約により化学と地学を同時に受験できず、前項の履修者激減の一因となりうる）

(3) 大学における問題

(a) 入試科目減少などに伴う、新入生の知識の極端な偏り

(b) 大学間及び学部/学科間における大学院生の流動化に伴い、院生の質が多様化している

これらは教育現場だけに限った問題であるが、それでも広範な立場の会員が多様な問題に直面していることがわかる。さらには、初等中等教育における気象学の削減が、一般国民が気象現象を理解できるレベルの低下をもたらし、さらには防災活動や研究予算の確保にも悪影響を及ぼす恐れがあるなど、教育に係る問題が異なる立場の会員に波及する可能性もある。また、学校教育で削減された分は、マスメディアによる気象解説を含む何らかの形の社会教育で補わざるを得な

い。これらの問題の根本的な改善のためには、異なる立場の会員が連携して当たる必要があり、学会としての組織的な活動が求められている。加えて、諸外国での気象教育に関する取り組みについても、情報の収集と分析が必要と思われる。

上述した一連の問題点を明確にしつつ、その改善に向けた取り組みを考える場として、かつ広く会員全体の情報交換の場として、研究連絡会を設立することを提案する。具体的には、年2回程度、主として春秋の大会に合わせて開催し、その都度適切なテーマを設定することにより議論を積み上げて行きたいと考えている。

発起人（五十音順）

北畠 尚子（気象研究所）

澤井 哲滋（気象庁予報部）

坪田 幸政（慶応義塾高等学校）

名越 利幸（町田市立武蔵岡中学校）

山下 晃（大阪教育大学）

2. 第1回研究連絡会の予告

日 時：2000年5月24日（水、春季大会初日）

18：30～20：00ごろ

場 所：つくば国際会議場（春季大会会場）内

テーマ：「学校教育における気象学の現状と新学習指導要領」（仮題）

今回は特に設立趣意の(1)に関して、小・中・高等学校の教員の方に話題提供をしていただく予定です。大会行事への参加・不参加にかかわらず、気象教育に関心を持つ会員の積極的な参加を期待します。なお、詳細は追ってお知らせします。

連絡先

〒305-0052 つくば市長峰1-1

気象研究所台風研究部 北畠尚子

TEL：0298-52-9167

FAX：0298-53-8735

E-mail：nkitabat@mri-jma.go.jp